

令和5年度 第4回川崎市社会教育委員会多摩市民館専門部会次第

日 時 令和6年2月18日（日）

午後2時10分～

会 場 多摩市民館4階 第1会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 市民自主学級・市民自主企画事業選考会

4 令和5年度第3回会議録について（確認）

5 議 題

（1）令和5年度施設管理等について（報告）

（2）令和5年度社会教育振興事業について（報告）

（3）今期テーマの報告内容について

「区内全域への社会教育アプローチ強化について

～アウトリーチ・モデルの実践を通して～」

6 閉 会

■資料一覧

資料 1	令和 5 年度第 3 回多摩市民館専門部会摘録（案）（1～5 頁）
資料 2	令和 5 年度多摩市民館施設管理等について（6 頁）
資料 3	令和 5 年度多摩市民館社会教育振興事業（7～13 頁）
資料 4	令和 4 ・ 5 年度多摩市民館専門部会報告（案） （14～25 頁）

参考資料

- ・ 多摩市民館だより
- ・ 事業等募集チラシ等

令和5年度 第3回川崎市社会教育委員会議多摩市民館専門部会摘録（案）

- ・日 時 令和5年12月12日（火）14時～16時
- ・場 所 多摩市民館 第5会議室
- ・出席委員 高梨部会長、米山副部会長、羽深委員、小澤委員、山本委員、安陪委員、三品委員、小園委員
- ・事務局 柏原館長、星野係長、篠原係長
- ・傍聴者 1名

1 開 会（星野係長）

2 部会長挨拶

3 館長挨拶

4 令和5年度第2回会議録について

資料1に基づき星野係長から説明し承認された。特に質疑はなし。

5 議 題

(1) 令和5年度施設管理等について（報告）

資料2に基づき星野係長から説明。特に質疑はなし。

(2) 令和5年度多摩市民館社会教育振興事業について（報告）

資料3に基づき篠原係長から説明。

（小園委員）

市民自主企画事業に採択された TAMA VOICES の「オトナリの音」事業は良い事業と思ったが、自分は参加できなかった。活動の様子はホームページなどで分かるか。

（篠原係長）

12月10日に行われた事業を動画撮影している。その日は、それまで実施してきた4回のワークショップの報告も行っており、その様子も含め撮影した動画が編集され、今後団体のホームページにアップされるかと思う。また、2月10日の生涯学習交流集会でも何らかの形で報告させていただく予定である。

（高梨部会長）

市民自主学級の「川崎市多摩区の副読本を作る」事業が取り下げになったとのことだが、提案者と稲田郷土史会が個人的に作成することになったということか。

（篠原係長）

10月に取り下げの申請が出された段階では、稲田郷土史会の活動の一環という形で研究を深めていくということであった。それまで、企画運営委員会には同会の会長ほか2名の方が毎回オブザーバーとして参加され、同会も一緒になり、どういう講座にしていくなか、副読本をどういったものにするかという話をしていたが、その中で事業の今後の進め方についても提案者と同会で話がなされ、今回の形となったもの

である。

(高梨部会長)

企画運営委員会のメンバーは解散となったのか。

(篠原係長)

そのとおりである。企画運営委員会には経過についても報告させていただいている。

(3) 今季のテーマについて

資料4に基づき篠原係長から説明。

(米山副部会長)

今期のテーマに係るモデル事業の高齢者セミナーについて、自分は長沢自治会の会長をしているが、多摩市民館が出張して講座を開いてくれるということで、本当にありがたく、地域の活性化につながった。1回目は、ながさわフェスタという地元のイベントと一緒に開催したが、2・3回目の講座は単体で実施したところ参加者数の面で反省点もあった。

昨日も地域支援課の保健師から、2月か3月に長沢自治会館での講座実施の相談があったが、色々な団体に声掛けをしないと集客が厳しい。声掛けをして団体として参加してもらえれば参加者も多くなる。団体の誰かをターゲットに声掛けをすると良いと思う。

(小澤委員)

素敵な事業だと思う。参加者数が少なかったとの話だが、高齢者にとっては1人で参加しても2人で参加しても、地域の方が互いに色々な話ができたとと思う。当日は専門の医者は参加したのか。

(篠原係長)

計画づくりの中では、地域みまもり支援センターからは、こうした講座は医者が主になって開いているという話は聞いていたが、スケジュール調整の面で課題があったことと、他と同じような講座となってしまうことなどを考慮し、医者に参加いただく形は取らなかった。

(小澤委員)

医者が参加していると、医者の話を聞きに行こうという人もいる。今回は参加者数が少なくても、地元の方は色々と話をしていると思うので、高齢者のつながりは広がっていくと思う。

(三品委員)

報告書のまとめ方について、資料16頁「I はじめに」の中で、課題と課題を解決するための手段が一緒くたに書かれているように思う。今期のテーマは、市民館が区内に1か所であり必ずしもアクセスしやすい人ばかりではなく利用しやすい状態になってないということが課題であって、それをアクセスしやすくするために社会教育を充実・強化していきたい、その手段として、市民館が地域に出向いていく、ということだと思うので、タイトルの内容に合わせて、それを書いた方が良い。

もう1点、今回のモデル事業では、第1回の講座で高齢者のほか家族連れの参加もあったということだが、資料22頁「評価・反省点」の中では、こうした成果があったことや、参加者からはこういう声があったということなどを具体的に記載した方が良い。全国で見れば似た事業を行っているところもあると思うので、そうした事業と比較して良かった点などとも言えるようであれば評価として盛り込むと良いのではないか。

(柏原館長)

資料16頁「Ⅰ はじめに」については、「前期の報告書では」という、前期のテーマを踏襲したような書き出し、内容となっている。導入部分なので分かりやすい内容となるよう表現を検討したい。

(三品委員)

前期は前期、今期は今期で重複する内容があったとしても、何がやりたいのか、という点をしっかり記載した方がよい。

(柏原館長)

資料22頁の「評価・反省点」に関する御意見については、モデル事業の実施結果のところで、参加者からの感想や連携した団体からの御意見などをもっと具体的に盛り込んでいきたいと思う。ただ、他の自治体・市民館との比較ということになると、きちんとした基準による比較というのは難しい面がある。

(三品委員)

全面的に評価をしようとする時間がかかり大変である。部分的にでも、他でやっていないことを今回のモデル事業でやった、というような点があれば盛り込んではどうかと思う。

(小園委員)

資料22頁の「評価・反省点」に、「対象者が参加したいと思う内容とのミスマッチがあったのではないか」とあるが、どういう点でそのように判断したのか。アンケートをとったのか。

(篠原係長)

アンケートはとっているが、第3回目の講座に参加した6名のアンケートなので幅広くは得られなかった。結果論ではあるが、第1回目は多くの参加があったので任意でもアンケートを取り、市民館がこのように地域に出向いていくことに対する意見を聞けると良かった。

ミスマッチと記載しているのは、今回23名の申込者に対して、チラシを配って各回の講座の内容をしっかりと広報していた中で多くの方の参加が得られなかったということは、やはり自分にとって足を運んでまで参加したい内容ではなかったということが考えられるので、記載したものである。また、会場が市民館の場合、日頃から何らかの講座が行われていることが認知されているが、自治会館ではあまりこのような講座が行われていないので、自然と足が向かないということもあったのではないかとと思う。

(小澤委員)

チラシは多摩市民館でも配布していたのか。

(篠原係長)

多摩市民館でも配布していた。他の講座で実施している広報はすべて行い、それに加えて地元の長沢まちづくり協議会の協力を得て、新聞折り込みで配布いただいたり、近隣の薬局に掲示いただいたりもした。

先程の米山副部長のお話にもあったが、やはり地域の方々の中での声掛けというのが、こういった講座の開催に当たっては大事だということは改めて感じたので、引き続き広報に努めていきたい。

(安倍委員)

報告書案はよく問題点のポイントをついていると思う。今回モデル実施した講座は全3回で、1回目は自治会等とタッグを組み人が集まる仕組みの中で開催し、2・3回目は自治会の一施設を借用し、テーマを提示し参加してもらうという、違う形式で実施している。必要な物品や協力団体も異なっており、それを一つの講座としてまとめて実施するのは難しいと思う。出前で実施する講座はどういうスタンスでどういう団体と実施するか、同じ団体のメンバーなのか、専門がそれぞれ異なるメンバーなのか、それによっ

ては一概に評価できなくなってしまう。報告書の中では、出前で実施する講座のスタッフや集客方法がどうあるべきか、今回のモデル実施を通じて何が足りなかったのか、その点を打ち出していくと内容がより現実味を帯びるのではないかと。講座で扱うテーマは大切なことから、より身近に参加してもらう方法を導き出していくことが必要だと思う。

(高梨部会長)

22頁の「2 来年度及び今後の方向性について」の中で、そういった課題や方向性を示していくことが必要と思う。

(三品委員)

先程、市民自主学級「川崎市多摩区の副読本を作る」が取り下げられたことについて質問があったが、最初に事業を提案された際には、こういう思いを持ってこういうことをやりたいというものがあったと思う。当初の提案者の思いが実現できるような方向になっているのか。提案者が当初やりたかった内容が変わってしまうことにはならないのか。

(篠原係長)

最終的には副読本を作ることが目標なので、学級の開催はなくなったが、ある意味更にスピードアップして進んでいくと思う。

(三品委員)

例えば、学級を開いて様々な人に参加してもらって作りたい、という思いがあったのにそれが変わってしまった、無くなってしまったということにはならないのか。

(篠原係長)

今回の提案は、一緒に活動する仲間づくりが最初のステップであったので、稲田郷土史会の方に出会い、仲間ができたという点では良かったと思う。

(高梨部会長)

報告書のことで、3点気になる点がある。

はじめに、22頁の「2 来年度及び今後の方向性について」の内容を考えていく中で、アウトリーチを実践していくための課題なのか、高齢者セミナーの実践に当たっての課題なのか、その点を整理して記載する必要がある。今回のテーマはあくまでアウトリーチをどのように実践していくかということなので、それをメインで主張していくことが必要である。

2点目は、来場者のアンケート数が少ないということだったが、学習の評価をする上では数だけでなく質もあると思うので、数は少なくとも内容に反映していくべきである。

3点目、23頁の部会長による「IV まとめ」を記載していくに当たり確認したいのだが、同頁の中に、今後他の地区で出前講座を開催していくことが望ましいといった趣旨の記載があるが、これは市民館としての今後の教育活動の方向性のことなのか、研究テーマに対しての方向性のことなのか、どちらのことを説明しているのか確認したい。

(柏原館長)

「市民館・図書館の管理運営の考え方」におけるこれまでの検討の中では、川崎市全体の市民館のあり方として、地域全体に向けてどのように地域づくり、つながりづくりをしていくかということを常々課題としてきており、市民館の事業において区域全体を見据えた事業展開ということは考えていかななくてはならないと考えているところである。

(高梨部会長)

今回のテーマの研究をした結果、残された課題について今後も取り組んでいくということか。

(柏原館長)

それを市民館としてやっていく。高齢者を対象とした講座とはならないかもしれないが、地域特性を踏まえた事業展開、アウトリーチを何らかの形で行っていく。ただ、それを次期の専門部会のテーマとするかどうかは、次期の部会の中で決めていくこととなる。

(篠原係長)

今後の進め方について、本日いただいた御意見を反映して報告書をまとめ、次回の部会の前に委員の皆様にご確認いただきたいと考えている。次回、最後の専門部会では事前確認でいただいた御意見を集約して取りまとめた報告書を提示するので、そこで最終的な確認をいただきたい。

6 その他

資料 5に基づき星野係長から次回専門部会の日程（２月１８日（日））を説明した。また、同日に開催する、多摩市民館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会の流れを篠原係長から説明した。

7 閉 会（米山副部会長）

多摩市民館施設の管理運営について

1 施設維持補修工事

(1) 多摩市民館実習室換気扇交換工事（令和6年2月下旬完了予定）

実習室天井裏に設置され、陶芸窯と連動して作動する換気扇が、令和5年12月下旬に故障したため、交換工事を実施します。

故障に伴い休止していた陶芸窯の利用を2月20日から再開する予定です。

(2) 多摩区総合庁舎雨漏り補修工事（令和6年2月中旬～3月上旬実施予定）

庁舎1階のアトリウム等で雨漏りが発生しているため、アトリウム天井の補修を行います。

(3) 多摩区総合庁舎外壁改修工事（令和6年1月完了）

令和4年7月から実施してきた工事が、令和6年1月をもって全て終了しました。

令和5年度多摩市民館社会教育振興事業

I 社会参加・共生推進学習事業

1 識字学習活動～日本語学級～

日常生活に必要な日本語の会話・読み書きの基礎学習の支援をし、学習者とボランティアが学び合う関係づくりをととして、多文化共生社会の実現をめざす。

(1)水曜・午前コース 令和5年4/5～令和6年3/13(年間継続)

学習支援グループ:ボランティアグループ「多摩にほんごの会」

《保育》保育ボランティアグループ「多摩保育グループ」

(2)金曜・夜間コース 令和5年4/7～令和6年3/15(年間継続)

学習支援グループ:ボランティアグループ「たま語」

2 識字ボランティア研修

識字学習活動に参画するボランティアの育成と資質の向上を図る。

(1)日本語ボランティア研修(入門研修)

地域で活動する日本語ボランティアの育成を図る。

5/10～7/26 水曜日午後(全10回) 定員15人 参加者数20人

3 障がい者社会参加学習活動 (青年教室)

地域での体験活動や交流をととして障がいのある人の社会参加を図るとともに、ノーマライゼーションの理念に基づき共に生きる地域社会の実現をめざす。

5/27(土)～3/16(土) 月1回土曜 【年間継続】

参加登録者 30人(5・6・7月は午前中のみ活動)・ボランティア 18人

5月:オリエンテーション・自己紹介 6月:アート体験・コースター作り① 7月:アート体験・コースター作り① 9月:全体会 10月:バスハイク① 11月:バスハイク② 12月:お楽しみ会 1月:料理教室① 2月:料理教室② 3月:1年の振り返り

II 市民自治基礎学習事業

1 平和・人権・男女平等推進学習

憲法・教育基本法の理念に基づき、世界の平和及び人権の尊重、性による差別や人権に関する問題解決に向けた学習機会を提供し、共に生きる地域社会の創造や男女共同参画社会の形成を目指す。

6月企画運営委員会が立ち上がり、企画検討

12/17(日)～3/3(日)13時半～15時 全7回 多摩市民館、フィールドワーク(ANIMAMALL〈アニマモール〉かわさき)

同推進学習Ⅱ(短期)は、2/10(土)～3/2(土)14時～16時 全4回で実施予定。市平和館及び多摩市民館にて、受講者参加型の講義形式で実施予定。

2 青少年教室事業

小学生・中学生・高校生等を対象として、青少年期の課題解決あるいは地域参加に向けた学習機会を提供するとともに、地域の中での仲間づくり、つながりづくりを促進する。

「テレビ番組の裏側をのぞいてみよう ～やってみよう☆アナウンサー体験～」

小学4～中学3年生を対象に、テレ朝出前講座でアナウンサー体験や現役のテレビ局員による講座を開催。

8/27(日) 全1回 多摩市民館 定員 40 人(保護者同伴可) 参加者数 19 人

3 シニアの社会参加支援事業

地域活動への参加や地域との関わり方等についての啓発事業として実施し、シニア世代等の市民が、これまで社会で培った豊富な経験と知識、多様な能力を活かし、これまで関わりの少なかった地域社会での様々な活動に参加できるよう支援する。

「とことん『幸』^{こう}齡者!老がいとは言わせないよ」

企画運営委員会「チームとことん!」(公募委員 7 人)と協働して実施。新規企画運営委員 1 人
『幸』齡者とは、「『地域で輝いている一』『地域に必要とされている』生きがいを持って毎日の生活を送り、幸せに年を重ねる」人のこと。『幸』齡者になるきっかけがつかめる講座。

10/5、10/19、10/26、11/2、19 10:00～12:00 全 5 回 木曜日

定員 20 人 参加者数 16 人

会場:生田出張所大会議室、Anker フロントウン生田、王禅寺エコ暮らし環境館

4 高齢者セミナー

高齢期の課題解決に向けた学習機会を提供する。また、学習を通じた、生きがいづくりや健康づくりを促進するとともに、幸福な高齢期をおくるための仲間作りの場の提供と支援をする。

実施時期 11/25、12/1、8 全3回 定員 30 人 参加者数 24 人

会場:長沢自治会館

5 家庭・地域教育学級

子どもを豊かに育む地域社会の創造を目指し、子育てに関する家庭・地域課題の学習機会を提供し親として市民としての学びを支援する。

I 期「子育て講座～0 歳児と楽しく過ごそう～」 11/7(火)、11/21(火)、12/2(土)、12/5(火)、12/19(火)10:00～12:00、12/2 のみ 13:30～15:30 全 5 回

定員 15 組 親子同室 参加者数 24 人 会場:多摩市民館 体育室

II 期「子育て講座～子どもと一緒に親も育つ(小学校に上がる前に編) 2/22(木)、2/29(木)、3/2(土)、3/5(火)、3/14(木) 全 5 回 定員 15 人 保育付き 会場:多摩市民館第 6、第 1 会議室

6 市民館保育活動

親等の学習活動への参加を支援し、乳幼児の社会的成長を支援するために、主催事業に適宜併設する形で保育活動を実施する。

【識字学習活動(昼)、家庭・地域学級Ⅰ・Ⅱ】

識字学習活動(昼)の保育は11月から再開

保育グループ:多摩保育グループ

7 PTA家庭教育学級

PTAが実施する家庭教育学級に対し、講師派遣等の支援を行うことにより、子どもの健全な成長に向けた学校・家庭・地域の連携による学習活動の振興を図る。(各単位PTAの企画による)

説明会 4/27(火)10:00～12:00 (小・中学校)

報告会 2/22(木) 10:00～12:00(小・中学校)予定

8 子育て支援啓発事業

地域の子育てに関し、情報提供・フリースペースを提供し支援イベントを行う。

企画運営:子育てを考える会「グレープ」

「子育てひろば」4～3月 おもに第2・4火曜(8月を除く) 10:00～12:00 多摩市民館

対象:0歳～就学前の子どもと親

「外国人の子育てひろば」4～3月 おもに第2金曜(8月を除く)10:00～12:00 多摩市民館

対象:外国人家庭親子

Ⅲ 市民学習・市民活動活性化学習事業

1 市民自主学級

区ごとに、企画提案会を開いた後の選考委員会の選考結果に基づき、市民グループが市民館との協働により地域の問題等に関する継続的な学習の場を設ける。

	受託グループ名	事業内容
学級1	個人提案	＜子育て・地域活動＞ 川崎市多摩区の副読本を作る 現在、市で作成されている小3向けの社会科副読本「かわさき」は、内容は充実しているものの、市というエリアの広さから多摩区についての内容を多く扱えない現状がある。多摩区に住んでいる子どもたちにとって、より多摩区について知り、楽しんで学習できるような補助教材を作成する。 5/15から企画運営委員を募集中 提案者含め6名の応募 8/26～企画運営委員会 10月取りやめの申請⇒承認

2 市民自主企画事業

区ごとに、企画提案会を開いた後の選考委員会の選考結果に基づき、市民グループが市民館との協働により地域特性に応じた学習・文化・芸術活動の場を設ける。

	受託グループ名	事業内容
事業1	ふらっとカフェを広める会	<p><まちづくり> ふらっとカフェ講座:みんなでトライするプログラム&ふらっとカフェ運営</p> <p>健康な生活に必要な「会話」の減少の抑制とより豊かな人生を求める「意識」の拡大を目的にカフェを運営する。</p> <p>講師を招き趣味・特技を通じて「伝えたい、聞いてほしい」を体験できる場を提供する。講座として地域の人材を活かした講師を招き、体験・視野を広げる。</p> <p>みんなでトライするプログラム:「歌と表情筋トレーニング」10/3、11/7 火曜日 13:30～15:30 全2回 定員 20人 多摩市民館大会議室、講堂</p> <p>みんなでトライするプログラム:「フレイル予防講座」2/6 火曜日 13:30～15:00 全1回 定員 20人 多摩市民館大会議室</p> <p>ふらっとカフェ:5/9、6/6、7/4、9/5、10/3、12/5、1/9、3/5 火曜日 13:30～15:00 多摩市民館第1会議室、多摩市民館大会議室</p>
事業2	TAMA VOICES	<p><文化・芸術活動>オトナリの音</p> <p>市民参加型アートプロジェクトを企画し、地域の方の表現したいという声を収集し、何かを表現したいという人をサポートし、豊かな文化的交流の場を創出したいと考えている。</p> <p>10/15、29、11/12、26、12/10 多摩市民館大会議室ほか 日曜日に 13:30～16:30 全5回 定員 20人 参加者数 10人(最終回は発表会で観覧者を募集)</p>

3 PTA活動研修 ～よりよいPTA活動のために

- (1) 学年学級委員会(小・中学校) 1回
- (2) 校外委員会(小・中学校) 1回
- (3) 広報委員会(小・中学校) 1回
- (4) 成人委員会(小・中学校) 1回
- (5) 役員研修会(小・中学校) 1回

【共催】多摩区PTA協議会

5/18(木)～6/15(木) 全5回 10:00～12:00

4 市民活動エンパワーメント研修

市民活動・ボランティア活動に関する学習機会を提供することにより、市民が自ら考えながら生活・地域課題等に取り組むことができるように、市民全体の地域づくりを支援する。

「市民活動・生涯学習活動相談ボランティアの人材養成講座」

10/3(火)～10/31(火) 10:00～12:00 全5回 定員 20人

5 市民講師活用事業

様々な分野において豊富な経験や資格、技術等を持っている市民が、地域の生涯学習における身近な学習支援者「市民講師」として活躍できるよう育成・支援を行う。また、先輩市民の講演例を参考に自らのスキルを振り返りブラッシュアップするとともに、今後の活動計画の策定支援(入門編)と前年度本講義参加者への活躍の場の提供支援(実践編)をする。

＜入門編＞7月1日(土)、8日(土)、22日(土)、29日(土) 全4回 14時～16時

定員 10 人 参加者数 10 人

(満足度3.3[4点満点] / 講座を知った1位:ホームページ[50%]、2位:市民館だより[25%])

＜実践編＞8月5日(土)、12日(土)、19日(土)、26日(土) 13時～17時 計10講演 参加85人 (満足度3.5[4点満点] / 講座を知った1位:ちらし[16.4%]、4位:市民館だより[6.9%])

会場:多摩市民館

6 リカレント教育推進事業

市民の学び直しの学習機会を提供することにより、市民自身が生涯にわたり学び続けていく自己啓発活動等の促進を図る。テーマの候補として、近年、情報が複雑多岐で多様化する中で、ことばの氾濫やコミュニケーションの欠如等が顕在化しているかと思われ、全世代を対象に、日本語の特に「話しことば」についての再考、再認識について、取り上げる。

11/4(土)、11(土)、18(土)14時～16時開催、定員 20 人 参加者数 30 人。

7 生涯学習交流集会

いきいきとした多摩区の社会教育の展開に向け、市民と職員が率直な意見交換をし、市民主体の地域の生涯学習を創り出すことをめざす。

2/10(土)13:30～16:30 「地域の居場所探し！つながり探し！～あなたの新たな“やりがい”さがしちゃお！」 会場:多摩市民館 3, 4 階 参加者数約 170 人

8 「地域の寺子屋事業」情報交換会

寺子屋コーディネーターや寺子屋先生など「地域の寺子屋事業」に携わる者のネットワーク化や事業連携を通じ、寺子屋事業の活性化、地域教育力の向上を目指す。

2/16(金)10:00～12:00 市内全中学校寺子屋情報交換会

9 学習情報提供・学習相談事業

市民の学習と活動を支援や様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し公開・提供。学習についての情報照会・相談を受け付け対応する。

「生涯学習相談コーナー」運営:多摩生涯学習相談ボランティアの会

市民の学習と活動を支援するために、様々な学習情報・市民活動情報を収集・整理し、提供すると共に、生涯学習相談員により市民からの情報照会・相談を受け付け対応する。

【年間継続】第2・4週火曜日 10 時～12 時

IV 市民と行政の協働・ネットワーク学習事業

1 課題別連携事業

(1)第 22 回多摩ふれあいまつり

6/18(日) 10:00~15:00

会場:多摩市民館他

「バリアフリー わたしとあなたとこの街と」をテーマに、多摩区で福祉活動をしているグループや福祉に関心のある人たちが、地域で行っている活動に関する情報を発信し、「バリアフリーのまちづくり」の理解と啓発をめざすまつり

主催:たまわかくさ(多摩区当事者・ボランティア連絡会)、多摩ふれあいまつり実行委員会

(2)たま学びのフェア 2024

多摩市民館で活動している団体等による学びの場を広げるイベント

3/9(土)、10(日) 10:00~16:00 会場:多摩市民館 【主催】たま学びのフェア実行委員会

(3)多摩区子育て支援会議

9/7(木)、2/8(木) 全2回 会場:多摩市民館

多摩区内の子育て関係機関、支援団体、市民グループによる会議

2 行政区・中学校区地域教育会議推進事業

川崎市委託事業

令和5年度活動日程

・総会:6/7(水) 議長:高森 康広

【多摩区地域教育会議・子ども会議】

・今年度は各中学校区への支援などを行い、見学等ができるのであれば積極的に参加する。

【多摩区地域教育会議・教育を語るつどい】

・10/14(土) 9:30~12:30 会場:多摩市民館 大会議室

【多摩区地域教育会議・広報紙「ちえの輪」発行】

年3回

3 文化団体連携推進事業

(1)春の文化祭 いけばな展 4月、バレエコンサート 4/23(日) 多摩区文化協会

(2)多摩区文化祭 いけばな展 10月、芸能の部 10/28(土)・29(日) 多摩区文化協会

(3)文化講演会 10月頃 多摩区文化協会(多摩図書館共催)

(4)文化サロン 7/1~9/1 文化祭俳句募集 10月表彰 多摩区文化協会

9月頃 座学「多摩区郷土史入門講座」 多摩区文化協会(稲田郷土史会、多摩図書館共催)

1/29(月)座学「多摩区の歴史 明治・大正」 多摩区文化協会

(5)文化教室 7/3(月)9(月)「健康バレエ・春」多摩区文化協会

8/5(土)6(日) 夏休み鉄道ジオラマとミニ運転会 多摩区文化協会

8月頃 夏休み芸能体験教室「琉球舞踊、他」 多摩区文化協会

11/27(月)12/3(日)「健康バレエ冬」 多摩区文化協会

12/25(月) いけばな 多摩区文化協会

4 地域課題対応事業 ※区役所費による事業

「第21回たまたま子育てまつり」 9/17(日) 9:45～15:00 会場:多摩市民館

主催:たまたま子育てまつり実行委員会

地域で子育てを支える環境づくりを目的とした子育てに関する企画やステージ・情報提供等

5 インターンシップ受け入れ

9～11月東京都立大学2名受け入れ

9月1、3日 3大学連携事業(多摩区役所企画課所管)として受け入れ:日本女子大学1名

V 現代的課題対応学習事業

1 現代的課題学習事業

現代的、今日的な課題に係わる学習機会を提供し、今を生きる市民の学習を支援する。

市制100周年記念プレ事業

「はじめての絵本づくり応援講座」 10/5、10/12、10/26、11/9、11/16、11/30

10:00～12:00 木曜日 全6回

定員 15人→21人に増員 会場:多摩市民館 第1会議室、実習室

公開講座「伝わる文章のコツ講座」10/12 10:00～12:00 定員10人→17人に増員

会場:多摩市民館 第1会議室→多摩区役所601会議室に定員を増やすため変更

VI 学習環境整備事業

1 広報・刊行活動

多摩市民館だより 年6回(5/1、7/1、9/1、12/1、2/1、3/31)

6,500部作成、各町内会・自治会回覧及び各公共施設にて配布

2 情報機器等整備貸出活動

川崎市視聴覚ライブラリーと連携し視聴覚教材を利用した学習ができるよう視聴覚機器及び教材を貸出する。(市民館ホームページ、学習相談・学習情報提供等により広報)

(案)

令和4・5年度 川崎市社会教育委員会議多摩市民館専門部会報告

区内全域への社会教育アプローチ強化について ～アウトリーチ・モデルの実践を通して～

I 今期のテーマ設定の経緯について

今期のテーマを「区内全域への社会教育アプローチ強化について～アウトリーチ・モデルの実践を通して～」とした。テーマ設定に至る経緯は次のとおりである。

川崎市では、令和4年8月に、市民からの多様なニーズへの確かつ柔軟に対応し、従来からの事業・サービス水準をしっかりと維持しつつ、新たな取り組みを展開していくために、「今後どのような管理・運営の手法が、その実現のために適しているのか」、「生涯学習推進の拠点として最も市民ニーズに沿った市民館・図書館であるためにどうしたらよいのか」という視点に立ち、効率的・効果的な管理運営手法を検討するものとして、「市民館・図書館の管理・運営の考え方」を策定した。

その中で、市民館は「『学び』を社会のいたるところで多く展開し、豊かな地域づくりを支援」し、「社会教育を通じ『人づくり』、『つながりづくり』、持続可能な『地域づくり』といったまちづくり施策の推進役としての機能が求められています」(P4)としている。

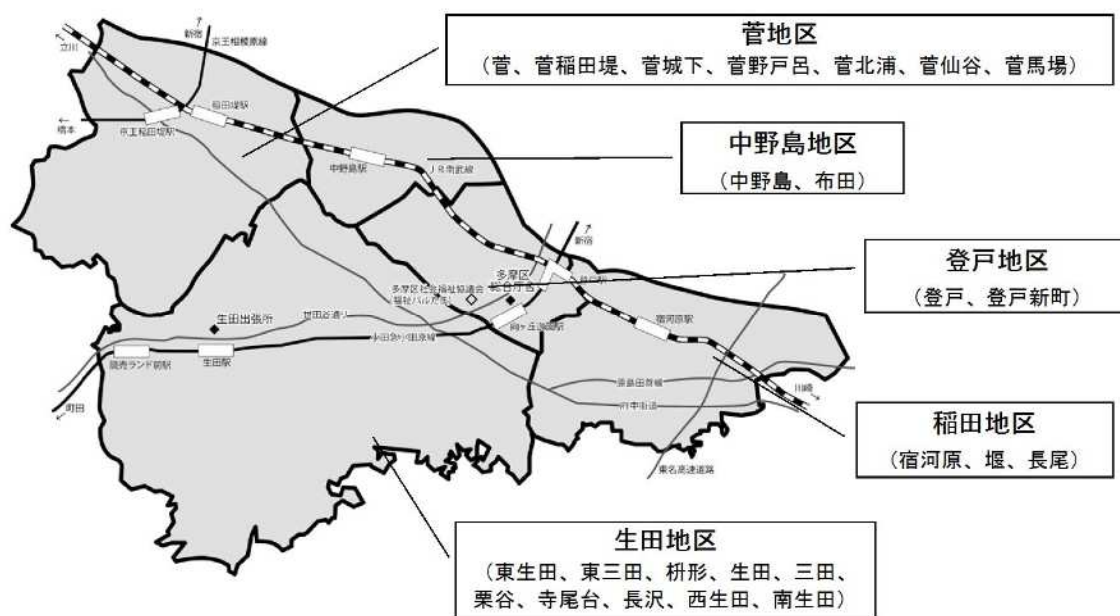
より多くの多摩区民が社会教育に関わるためには、多摩市民館を会場とする講座や事業の充実・強化を図ることはもとより、多摩市民館から離れた場所に居住するなど、アクセスに時間を要する方や困難を伴う方が気軽に参加できるような機会を創出することが必要である。前期の川崎市社会教育委員会議多摩市民館専門部会報告書でも、地域資源の活用についての今後の取り組みとして、「これまで市民館を利用していなかった人や、距離や交通手段等の事情により市民館を利用しづらい人も多いと思われることから、こども文化センター、老人いこいの家、学校開放施設などに市民館が出向き、地域で活動する団体や人々と協力しながら、事業や講座等を展開」、「地域での活動により、市民館活動の周知と利用促進」(P3)などを挙げている。

以上を踏まえ、今期専門部会では、多摩市民館の方から地域へ積極的にアプローチし、区内の地域資源を効果的に活用しながら市民館内にとどまらないアウトリーチ（地域に出向き行政サービスを行うこと。例えば、身近な場所での学びの場づくりのための出前授業、講師派遣、地域イベントへの出店等）を進めていくにあたり、どのような方策・課題があるか、実践を通して検討することとした。

II モデル地区の設定

近年、多摩市民館の社会教育振興事業は、ほとんど市民館を会場にしており、一部生田出張所で開催しているもののほかの会場に出張して開催している実績がない。今回のテーマに基づき、一気に区内様々な場所で事業を実施することは現実的ではないため、まずはモデル地区を設定し、出張講座を開催するに当たっての課題の洗い出し及び開催したあとの効果検証を行い、それを踏まえながら今後について考えることとした。

モデル地区の設定に当たり、多摩区内での地域づくりの取り組みとして多摩区役所が行っている地域包括ケアシステムでは5つに地区割りをしている（下図）。



登戸地区は多摩市民館がある地区なので、主にほかの4地区について、人口、年齢別人口割合、高齢者施設・こども文化センターなどの施設の分布などを比較し、出張した場所で参加者が集まるかも踏まえ、人口が多い生田地区を、取り組みのためのモデル地区として設定した。

Ⅲ 講座の企画検討・実施に向けた準備

1 地域特性に応じた講座テーマと出張講座の会場の検討

生田地区での出張講座を開催するに当たり、まず、どのような講座を開催するかを検討した。

「市民館・図書館の管理・運営の考え方」に、「区役所においては、『川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン』（平成 27 年 3 月）や『これからのコミュニティ施策の基本的考え方』（平成 31 年 3 月）に基づく地域づくりに向けた事業展開をしており、地域における生涯学習支援はこれらの取り組みと連携して地域づくりを展開する必要がある」（P5）としていることを意識し、地域包括ケアシステムの取り組みとして多摩区役所が作成している「多摩区地区カルテ生田地区」にて、区全体における生田地区の特徴、生田地区の中でも町丁ごとの人口などの統計データや施設などの地域資源、地域活動などを確認した。

生田地区は、特に高齢化率が高いことが読み取れたので、社会教育振興事業の中で世代別学習活動として実施している「シニアの社会参加支援事業」または「高齢者セミナー」に当たりをつけた上で、区役所地域みまもり支援センターの生田地区担当職員（保健師等）と意見交換を行い、多摩区役所地域みまもり支援センターでは、近年、多摩区の現状を踏まえ、高血圧予防に力を入れていることがわかった。

区役所の取り組みに連動することもあり、血圧対策に関する講座を開催することにした。

テーマの検討とともに、出張講座の会場の検討も同時に行っていた。生田地区で、市民館へのアクセスに比較的時間を要する地域の区民を対象に会場を考えていくことにして、町丁で言うと生田 4 丁目以降、栗谷、寺尾台、長沢、西生田、東三田、三田、南生田にまず絞った。

生田出張所では毎年「シニアの社会参加支援事業」を開催しているので、生田出張所からも離れた地域を中心に、「高齢者セミナー」の対象者である 65 歳以上の人口割合が多く、高血圧の区民の割合が多い地域で、20～30 人以上の人が一堂に会する場所があるといった条件で検討を進めたところ、一旦は南生田小・中学校の地域開放施設が使えないかと考えた（次ページの図を参照）。

本市では、市立小・中学校・特別支援学校の校庭や体育館、特別教室を、学校教育に支障のない範囲で、市民のスポーツ・レクリエーションや生涯学習・市民活動の場として開放している。南生田小学校（南生田 3-1-1）で利用できる特別教室は音楽室、南生田中学校（南生田 3-4-1）で利用可能な特別教室は図書室。それぞれ学校に問い合わせたところ、音楽室には楽器が置いてあること、図書室にも書棚があるなど制限があることが分かった。

講座のテーマを高血圧対策としており、健康体操の実習は必須と考えていたこともあり、会場として南生田小・中学校より適した場所を探すことにし、ほかに 20～30 人が一堂に会する、地域の住民が

◆ 公的施設

- 地域包括支援センター（包括C）
- 高齢者施設
- ▲ 障害者相談支援センター
- こども文化センター（こ文）
- ◇ 地域子育て支援センター（地子C）
- ▽ 小・中・高校
- △ 大学

The map shows the following locations:

- 生田東高▽▽柗形中
- 生田小▽
- 日本女子大付属中・高▽
- 日本女子大△
- 読売ランド前駅
- 町田
- 新宿
- 柗形（いこいの家、こ文）
- 北部児童相談所◆
- 生田出張所
- 東生田小▽
- 明治大学地域産学連携研究センター◇
- ますがた（地子C）○
- 錦糸丘（いこいの家、こ文）●
- にしきがおか（地子C）◇
- 生田中学校特別創作活動センター△
- 生田中▽
- 三田小▽
- 三田（こ文）○
- 明治大△
- 専修大△
- 太陽の園（包括C）■
- 南生田小▽
- 南生田中▽
- 百合丘高▽
- アベク▲
- 川崎市高齢社会福祉総合センター●
- 長沢辻寿の里（包括C）■
- ※建替え中は仮事務所移転予定です。

(1) 学習計画の立案

4

令和5年度多摩市民館高齢者セミナー 学習計画書

- 主題 高血圧に悩んでいる人・心配な人が、高血圧を予防・改善していつまでも元気に暮らす～多摩市民館へのアクセスが悪い人を対象に～
- 学習目的 市民館へのアクセスが悪い、多摩区の南生田・長沢の地域は、高齢化率も高血圧の方の割合も高い地域である。
講座参加者に、高血圧対策を行うことが今後の人生にどのようにいい影響を与えるか理解してもらい、地域で生き生きと暮らすきっかけにしよう。
- 対象(定員) 概ね65歳以上 30名(先着) 第1回目は長沢オータムフェスタ来場者も参加できる公開講座
- 日程(回数) 3回
- 会場 長沢自治会館(多摩区長沢4丁目10-5)
- 広報計画 市政だより、(南生田・長沢地域)薬局

特別に出向いて行うこと、「ほとんど」の人が高血圧になること、なぜ隣の麻生区が平均寿命日本一なのかを意識させる

	開催日時	学習課題	学習内容	学習のねらい	学習方法	講師(敬称略)
1	11月25日(土) 11時～15時 長沢オータムフェスタ 同日開催	自分の健康状態を知る	オリエンテーション (明治安田生命に協力いただき)機器を使って 自分の健康状態を知る。 数値を基にした健康相談	自分の現状を把握し、改善すべきところ 延ばすところの目安をつけるとともに、 今後の講座が自分にどのように役に立 つのかを理解し、学習意欲を醸成する。	実習	明治安田生命川崎支社 協力:生田第2地区民生委員児 童委員協議会、長沢壮寿の里地 域包括支援センター、多摩区食 生活改善推進員連絡協議会
2	12月1日(金) 14時30分～16時30分	高血圧対策の効用を学習する。	高血圧がどうして問題なのか、高血圧対策が どのように良い効果をもたらすか資料を使って 説明。 さらに、体の部位ごとの機能を、健康体操を実 演しながら理解する。	高血圧対策がどれだけ今後につながる かを理解し、「動く」モチベーションを受 講生に気づいてもらう。	講義 実習	肥満予防健康管理士・認知症予 防指導員 中山 快晴 多摩区役所地域支援課 保健師
3	12月8日(金) 14時30分～16時	南生田・長沢地域で開催して いる活動等の紹介を通して、 地域での活動場所・居場所候 補を知り、つながるきっかけと する。	実際に南生田・長沢地域で活動している健康 体操を体験したり、ほかの活動事例を知る。 また、川崎市健康ポイント事業(かわさき TEKTEK)が始まったことを紹介する。	講座のあと、引き続き血圧対策の活動 を行えるように、地域で行われている活 動を紹介して、続けるきっかけを作る。。	講義 実習	職員(市民館):かわさきTEKTEK 紹介 多摩区ウォーキング推進委員会 会長 山本 隆 南生田4丁目公園体操 世話人 福島 通文 さわやか体操(長沢自治会館) 運営 社会福祉法人白山福祉会 岡崎 寸見江

(2) 実施の準備、広報

第1回は、ながさわフェスタ in 諏訪社(学習計画書作成後、イベント名称変更)と同日開催で会館で「健康フェスタ」と題し健康測定を行い、自分の健康状態を確認したあと、第2回は測定結果を意識しながら保健師による血圧対策の必要性を講義してもらい、体の使い方を意識した健康体操の実演、第3回は今後体を動かす機会を紹介する構成にした。講座終了後も、講座をきっかけに新しい活動場所、知り合いを参加者に提供することを意識して、3回連続講座とした。第1回では、講座の申込をしていない人も、2回目以降申込を行えるようにし多くの方が講座に参加できるような配慮も行った。

広報をどのように行うかも課題だった。多摩市民館と違い、限られたエリアを対象にどこまで多くの方を申込につなげるか。以下の取り組みを行った。

- ・南生田・長沢地域の5か所の薬局にポスター掲示の協力(多摩区健康づくり推進連絡会議経由で多摩区薬剤師会の協力)
- ・ながさわフェスタと連携した健康フェスタのチラシ(長沢まちづくり協議会作成)の新聞折り込み2回(長沢商店会協力)
- ・タウンニュース多摩区版11月24日号(ながさわフェスタと健康フェスタの告知)
- ・その他、市民館だより・市政だよりや事前の他講座でのチラシ配布など、従前の講座と同様の告知

開設の準備として、会場への資材の搬出入も普段と違って注意を要した。

スクリーンやプロジェクタ、マイクアンプを車両で持ち込む必要があったが、会場の駐車場の支払いをどうするか課題となった。長沢自治会や隣接の諏訪社に配慮をお願いすることもできたが、モデル事業の準備でどのようなことが必要かも、今後継続的に様々な場所にアウトリーチを展開するときに生きてくると思われたため、あえて特別な配慮をお願いせずに済む方法を模索した。

IV 高齢者セミナーの開催

0 募集開始

募集開始に当たり、申込事項にお住まいを「多摩区長沢、多摩区南生田」という形で任意で申告いただけるようにして、どのような地域から応募があるかある程度分かるようにした。

11月15日から応募を受付け始めたところ、多摩区東生田、麻生区王禅寺などいろいろな地域から

応募が9件あり、遠いところでは世田谷区からも申込があった。定員が30人のところ9件ではあったが、第1回で同時開催するながさわフェスタに多くの方が来場され、その中から現地での申込が期待できたので、この時点ではそれほど心配はしていなかった。

いつも市民館で開催している講座と同じく、講師、関係者と打合せを行い、必要な機材や流れなどを確認して11月25日の第1回に臨んだ。

1 第1回 11月25日（土）

参加者：約120人

当日の天候は晴れ。前日までに比べぐっと冷え込んだが、多くの方がながさわフェスタ及び健康フェスタにお越しになった。11時から1時間ぐらいは高齢の方ばかり入場され、昼過ぎからはながさわフェスタに来ていたと思われるファミリー層の来場が多くなった。

高齢の方に受付の際に、次週開催する高齢者セミナー第2回に参加されるか聞き、応募者が合計23人となった。





2 第2回 12月1日（金）

参加者：7人

当日は寒かったもののそれほど天気は悪くなかったが、申込者に比べかなり少ない参加者となった。急遽長沢自治会の会長と副会長のお二人に参加いただいた。講座は順調に終わり参加者には好評だったが、終了後、申し込まれている人に次週第3回が開催されることを電話で連絡した。

連絡したところ、第1回で申し込まれた多くの人が、忘れていたり都合が悪くなったと言われたりされ、12月1日に第2回が開催されることをしっかり受け止めていない人が数多くいたと感じた。

3 第3回 12月8日（金）

参加者：7人

天気は良く、第2回以降こちらから連絡して第3回のことをお伝えした人が何人か参加された。



V 開催結果・来年度以降

1 評価・反省点

市民館のアウトリーチは必要でニーズがある、と、モデルを通じて実感した。

受講者へのアンケートを第3回終了後に取ったが、初めて市民館主催の講座に受講した人が、魅力を感じた講座であれば自宅から遠い多摩市民館でも参加したいと答えた人が複数人いた。また、今回地元で協力いただいた方から計画段階での打合せで、市民館が地元の自治会館など近いところに出張してもらえるのは本当にありがたい、とほぼすべての団体から言われ、広報等で使えるフレーズとして、『出張多摩市民館』という名称もいただいた。

ただし、市民館で講座を開催するのに比べて、注意すべき点が多種多様であることがはっきりわかった。第2・3回の参加者数が、通常の市民館開催と比較してそれほど少なかったわけではないが、充実した広報を行った結果の数であることを考えると、市民館のように普段講座を開催する場所ではないため、出前講座を開催する際はいつも以上に広報に力を入れなければならないと感じた。

また、第1回の参加者が多かったことからわかるように、学習計画を地域の方々から協力いただき作成し、その地域の人が楽しそう・行ってみようと思う講座・企画を運営することも大切だと感じた。

2 来年度及び今後の方向性について

「市民館・図書館の管理・運営の考え方」では、「市民ニーズの広がり・多様化の状況があり、的確に対応していく必要がある」現在の状況があり、今後は「市民と協働しながら、多様な市民ニーズをケアするための体制・手法を検討」(P9)した結果、指定管理者制度を導入し、「市職員が生涯学習支援事業をより地域の様々な場所で展開することで、地域での生涯学習支援事業を通じて『人づくり』、『つながりづくり』、『地域づくり』を促し、市民の地域活動の活性化につなげる」(P27)こととしている。

地域で活動している団体と連携することで、団体間のつながりができることでの今後の活動の発展など、地域活動の底上げの一助になる可能性もある。一方で、連携団体へのあいさつや団体からのある程度の信頼獲得など、コミュニケーションをしっかりと取ることが必要になってくる。また、いつも講座を開催している市民館とは、会場の広さ、置いてある機材、会場代など色々な面で違いがあるので、実施する会場の関係者ともコミュニケーションをしっかりと取るべきかと思われる。さらには、天候や危機の不調、緊急時の連絡体制等、突発的な事象が起きた時に対処できるよう、日頃からトラブル等に対処できるようなスキルを身につけるよう職員意識の向上や研修体制の充実に組織的に取り組むことが大切だと感じた。

今回アウトリーチをモデル的に実践して得られた効果の検証と課題の洗い出しを踏まえ、来年度以降も多摩区内の学びの質と量を増やしていくことを念頭に今後も関係部署との意見交換を深め、稲田地区など、生田地区以外の5地区にも「出張多摩市民館」を検討していきたい。

Ⅵ まとめ

令和6（2024）年3月
部会長 高梨 宏子^{こうこ}

本報告書では、今期専門部会が取り組んできた実践を報告してきた。今期は「アウトリーチ」をテーマとしたが、アウトリーチ型講座は多摩市民館ではこれまでにほとんど経験のない取り組みであり、実験的な調査・研究となった。

本論の前に、地域における社会教育とはどのようなものか確認しておきたい。社会教育は学校や家庭以外の社会で広く行われる組織的な教育活動のことを指し、日本では古くから地域に根付いた教育活動が続けられてきた。地域に住む人々が自主的・自発的に取り組み、共に学び合うことが目指されており、学びを通じた「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」ⁱを特徴としている。

その学びの場は多様であり、公民館をはじめとする社会教育施設等が人々の学びを支援してきている。川崎市における市民館は公民館的役割を担うものとして、各区に1館設置することになっている。多摩市民館では、多摩区全域がその対象地域ということになる。また、特徴として市民館はホール機能を備えた大規模施設であることがあげられる。その多様な施設機能は学習者の活動の幅を広げることになる。一方で、区内全域というその範囲の広さから日常的な学びの場として市民館の存在が区内住民に根付いていないのではないだろうか。こうした実践上の課題を抱えていることから、今期は、市民館職員が市民館の外に出て各地区での実践のあり方を探ることとなった。

学習施設や教育機関を利用して学ぶことができない人々のために、出前授業、遠隔教育等の手段で学習活動を可能にする支援をアウトリーチと呼ばれる。アウトリーチの対象例として、育児や介護等で家庭や居住地域を離れられない人、職業や社会的活動で時間的な自由度の低い人、精神的・身体的な障がいⁱⁱのためにきめ細やかな教育が必要な人などがあげられるⁱⁱⁱ。今回の実践では、多摩市民館への移動が困難な高齢者が多い地区を選定した。アウトリーチの実験を行うのに適していると考えられる。

報告内容をふり返ると、今回の実践の意義は2点あると考える。一つは「市民館の新たな可能性の提示」である。市民館職員が自ら地区に出ていき講座を実施したことは、能動的な側面を持った教育施設としての可能性を示すことができた^{iv}と考える。こうした市民館の動きは、住民としては、市民館を身近に感じる第一歩となり、市民館のイメージを更新していくことにつながる。市民館は「遠くて行けないところ」ではなく、「自分たちの地域での学びに大事なパートナー」との認識に変わるのではないだろうか。物理的な距離を縮めることはできなくとも、心理的な距離を縮めることが可能になるだろう。

もう一つは「市民館として学び続けること」である。今回の実践では、市民館としても初めての取り組

みであり、また地区にとっても初めての取り組みであった。各所との連携や開催内容、方法等、今後検討していかなければならない点も見出された。それらを受け、「今後の方向性」の中で来年度以降のアウトリーチ型講座の検討がなされている。実践から学び、市民館としての力量形成の様子が窺われる。社会教育における評価では、参加者数や参加者アンケートの結果など量的評価が問われることがある。しかし、今回のように、何のために何をしていくのかを市民館職員が考えていくことは質的評価に値すると考える。

今後期待される展開もある。今回対象とした地区以外にも多摩区には5地区が存在する。子育て世帯の多い地区、単身者の多い地区などそれぞれで抱える課題も異なる。行政・民間・市民団体を問わず多様な関係者と連携した取り組みが求められよう。

また、アウトリーチ型講座の課題として住民をエンパワーメント（Empowerment：個人や組織、集団が本来持っている力を引き出すこと）していく仕組みづくりが必要ではないだろうか。住民による自主的・自発的学習活動が特徴である社会教育においては、学習主体である住民の自主性を尊重することも重要である。個人が学び続け、地区として成長していくためには、市民館職員による講座が終了した後も学びが継続していくことが期待される。住民主体の講座運営とすることも必要ではないだろうか。具体的には、住民が運営委員として講座準備に関わる。そこで住民が感じる各地区の課題をくみ取っていくことができる。住民自身が地区の課題を認識し、当事者意識を持つことは学びを展開していく上で重要である。市民館職員はそのきっかけづくりや専門的知識等の助言をしていく立場となり、住民たちの手で学びをつくっていくような展開が各地区で繰り広げられるとよいのではないかと。そのことで、個々人の学びやつながりづくりが促進され、学びを通じた豊かな地域づくりに貢献できるだろう。

本報告書が今後の多摩区の社会教育の発展に活かされることを期待したい。

ⁱ 中央教育審議会(2018)「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」

ⁱⁱ 田中雅文(2012)「アウトリーチ」社会教育・生涯学習辞典編集委員会(編)『社会教育・生涯学習辞典』朝倉出版, p.3-4